

地域の わ 通信

Kanagawa-ku
Chiiki ryoku

神奈川県庁の庁舎内向けに、区内の地域情報や地域支援に関わる業務などを紹介します。

区政推進課 地域力推進担当 411-7026

第4期 神奈川県地域づくり大学校

第2講

若手の取組からヒントを探る

〜目からウロコのリレートーク〜



第2講は、区内外の自治会町内会で少し先をいく活動をしている3名によるリレートーク。シンプルで実践的な防災組織の事例、子ども会の仕組みを変えて、みごとによみがえらせた事例、神奈川県内にある自治会町内会のイベントのサポートをしているお父さんたちの事例についてのお話を聞きました。話を聞いた後は理解を深めるため、発表者に直接質問するグループワークをしました。受講者からは、活発な質問が飛び交い、どの事例にも関心の高さが伺えました。

第2講概要

日時：10月21日（日）9:30～12:30
場所：神奈川県庁
主催：神奈川県連合町内会自治会連絡協議会
認定NPO法人市民セクターよこはま
神奈川県庁
協力：社会福祉法人横浜市神奈川県社会福祉協議会
受講者：19名（第2講参加は15名）

当日のプログラム

- あいさつ
- リレートーク（事例発表）
 - ①〈戸塚区〉アイデアいっぱいシンプルで実践的な防災組織
 - ②〈都筑区〉子どもからつながる多世代循環の仕組み
 - ③〈神奈川県〉地域のお父さんによる自治会町内会お助け隊
- グループワーク（ワールドカフェ）

■ 「リレートーク」 目からウロコの活動紹介



横山 清文さん
(戸塚区)

アイデアいっぱいのシンプルで実践的な防災組織 (グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会)

私が目指す活動は、いざという時に動ける防災活動です。マンション内に自主防災組織を作り、活動の基本方針は、**自助と共助の明確化**です。自助の意識を住民に徹底し、共助では、要援護者の確認、ガス式発電機による投光器作動やテレビ放映、トイレの設置などを行っています。**活動の成功のポイントは、「任期を切らない」「やる気のある人を一本釣り」「活動の簡素化」「飲コミュニケーションを含め楽しく活動する」**です。



志村 友規子さん
(都筑区)

子どもからつながる多世代循環のしくみ (北山田町内会)

以前は、会員数 2000 世帯の大規模単一町内会で子ども会の会員数は 8 名でした。これはいけないと、課題であった会員増加と保護者負担軽減を目指し、**子ども会の会員を子どもにし、その運営は地域の人が登録しているボランティア組織「キタボラ」**が行うことで、子どもと地域の人をつなげています。活動 PR は、回覧板や掲示板に加え、Facebook の活用やmamail というメールシステムを導入しています。



坂田 大輔さん
(神奈川区)

地域のお父さんによる自治会町内会のお助け隊 (P.P.Tの会「パパ友の会の略」)

「新たな担い手を確保したい」という地域の思いと「参加しづらい地域活動に、若い世代が参加しやすい団体があればそれに続く若手が増えるのでは」という地域づくり大学の卒業生の思いが合致し、自治会町内会にとらわれず、地域活動を担う次世代が活動する「P.P.Tの会」が発足しました。主な活動は、**自治会町内会が行うイベントのサポート**です。**地域活動の向き合い方は、「楽しむ！無理しない！ひとりではない！気長に！」**がポイントです。

■ 「ワールドカフェ」 発表者との質疑応答・ディスカッション



ワールドカフェでは、リレートーク発表者と受講生による質疑応答とディスカッションにより、活動への理解を深めました。

発表者 3 人の印象に残った言葉

①横山さん

「防災活動で一番大事なことは、いざという時に動ける組織です。毎年人が変わる組織や知識がマニアックすぎる防災活動は、実際には動きづらい場合があります。」

②志村さん

町会以外の子どもの参加する子ども会には援助できないと言われた時、「子どもは地域の宝です。地域の方の老後は今の子どもたちの肩にかかっています。」と説得しました。

③坂田さん

「役員になりたての頃、地域活動は私の中では義務でした。そんな時、他の活動者から『活動は楽しまなくちゃ』と言われ、心が楽になりました。それが今の活動の原点です。」

